

# ◎ 組合員とともに歩んだ10年

北海道農業協同組合中央会  
会長 飛田 稔章



きたみらい農業協同組合が設立10周年を迎え、その輝かしい歩みを記された記念誌が発刊されますことは誠に意義深く心よりお祝い申し上げます。

50年を超える歴史をもつ8JAが大団結し、現在のきたみらい農業協同組合が誕生されたわけですが、今日の本道を代表するJAを築かれるまでの組合員並びに役職員の皆さま方の並々ならぬご尽力に対し、心より深く敬意を表する次第であります。

WTO・EPA、そして直面するTPP交渉問題等、農業をとりまく情勢が激動しているなか、貴JAは経営理念である「組合員のため、組合員による、組合員とともに」をもとに、各生産者組織や青年部・女性部の拡充並びに各作物集出荷貯蔵施設、哺育育成センターなどの生産販売体制の強化に前向きに取り組まれるなど、地域農業の基盤づくりを積極的に進めてこられました。

一方、JA経営においては、財務基盤の強化に努めつつ、現場に出向く営農支援や機構改革・人材育成を通じた事業体制の強化をはかり、組合員の負託に応えるためのJA組織並びに事業運営の確立に鋭意努めてこられたところでもあります。

今や販売・購買部門をはじめ、各部門の事業取扱高は全道トップクラスの規模を誇り、

まさに協同活動が結実した姿であるものと存じます。

一方、組合員や地域住民との絆を結ぶ広報活動にも力を入れており、全道をリードする積極的な取り組みは高く評価されるところで

す。JAグループ北海道は、先の第27回JA北海道大会において「持続可能な北海道農業の実現」と「次代を担う協同の実践」を決議いたしました。

不安定な政治・経済・社会情勢、JA事業にも影響しかねない規制緩和の動きなど、先行き不透明な状況が続きますが、わが国の食と農業を守り、地域経済・社会を維持・発展させていくためには、JAグループが果たす役割は今後とも大きなものがあるとともに、時代の流れを踏まえたなかで、必要な自己改革も進めていくことが重要であると存じます。

そのことが、さらに多くの国民が農業・JAの応援団としてともに歩んでくださることにつながるものと確信する次第であります。

このたびの創立10周年という輝かしい節目を契機として、貴JAが文字通り「未来」に向かって大きく躍進されますよう、併せて、組合員・役職員の皆さま方のご健勝・ご活躍を心よりご祈念申し上げ、記念誌発刊にあたってのお祝いの言葉といたします。

# ◎ JAきたみらい10周年を祝して

北海道オホーツク総合振興局  
局長 中島 克彦



JAきたみらい誕生10周年を心からお慶び申し上げます。

平成15年2月1日、1市4町の8農協が広域合併し、「きたみらい農業協同組合」が新たな船出をして以来、販売取扱高全道一を誇る管内で最大規模のJAとして、組合長をはじめ、組合員、役職員の皆さまが一体となって、地域に根ざした協同活動を積極的に展開されるとともに、地域住民の期待と信頼に応える健全なJAづくりに取り組まれ、地域農業・地域経済の振興に大きくご貢献いただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

貴JAの10年を顧みますと、常呂川の恵みを受けた肥沃な大地を基盤として生産される、多様な農産物から生まれた加工食品、「きたみらいブランド」や、環境に配慮した独自の栽培基準による「ECOみらいブランド」の誕生は、多様化する消費者ニーズとの架け橋となり、地域ブランドとして定着し、産地の育成や農業の振興、地元製品の消費拡大にも大きく貢献いただいているところです。

また、平成16年には「豆類乾燥調製施設」、平成19年には「小麦乾燥調製貯蔵施設」を建設されるなど、広域合併のメリットを最大限に活かし、農家経営の安定対策に取り組んでこられました。

これらの取り組みは、オホーツク地域農業の発展に多大なる影響を与え、その実績は高く評価されるところです。

近年の農業情勢は、TPP問題をはじめ、農家戸数の減少や農業従事者の高齢化、度重なる異常気象の発生や野生鳥獣被害の拡大、過疎化による集落機能の低下など、さまざまな問題を抱えております。

このようななか、JAきたみらいが「地域農業の発展と地域経済への貢献」を旗印として、これまでの実績を糧に、これからも組合員、役職員が一体となり、オホーツク地域農業のリーダーとして、輝かしい未来に向かってご活躍されますことをご祈念申し上げ、JAきたみらい誕生10周年にあたってのお祝いの言葉といたします。

# ◎ JAきたみらい10周年記念誌 発刊にあたり

北見市

市長 櫻田 真人



きたみらい農業協同組合が合併10周年を迎えるにあたり、心よりお祝いを申し上げます。

貴JAは、平成15年2月1日に1市4町の8JAが合併し発足以来、JA綱領、経営理念を実践され、「組合員とともに、組合員による、組合員のための」をスローガンに、地域に貢献する「魅力あるJA、選ばれるJA」を目指され、経済の市場主義化やグローバル化が進むなか、組合員の皆さんの絆を基盤に、民主的な運営により生産から販売、金融にいたる総合事業の展開及び福利向上、更には地域の振興の発展にご貢献され、組合員並びに職員の皆さまの農業に対する熱意のもと、ますます発展の一途をたどっておられることは誠に慶賀に堪えません。

この間、組合長をはじめJA関係者の皆さまには、当市の基幹産業であります農業の振興に多大なご尽力を賜り、また、当市の市政各般にわたり特段のご理解とご協力を賜っておりますことに、深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

さて、本市の基幹産業であります農業は、約22,000㌦に及ぶ耕地面積を有し、稲作や麦類、馬鈴しょ、てん菜、豆類などの畑作と、玉ねぎを中心とした野菜などの園芸作物の生産に加え、酪農、肉用牛などの畜産を含め、多様な経営が行われており、なかでも「北見玉ねぎ」については、全国の生産量の16%を占め、北見ブランドとして全国に認知され、北見を代表する基幹作物として、農業だけで

はなく地域の経済を支える、大変重要な役割を担う作物であります。これもひとえに、貴JAのたゆまぬ生産技術の研鑽と、販路拡大の努力を行っていただいた賜物であり、貴JA及び組合員の皆さまのご努力に対し、敬意を表する次第であります。

さて、昨今の農業情勢は大変厳しい局面を迎えており、3月15日に安倍首相がTPPへの交渉参加を表明して以来、国民に対する十分な説明や情報提供のないまま、政府はTPP交渉参加への道を突き進んでおります。TPPは、当市の基幹産業である農業への影響は計り知れず、また、医療・保健・金融など多岐にわたり市民生活に影響を及ぼし、さらには地域経済や社会の崩壊が危惧されております。

北見市では、魅力ある「地域循環型都市」の実現に向けて、活力のある、輝きに満ちた地域農業を確立するため、TPPへの参加には反対をするとともに、組合員の皆さんが将来にわたり希望を持ち、持続可能な安定した農業経営を継続できるよう、貴JAとともに努めてまいりたく考えております。

最後になりますが、貴JAにおかれましては、市内はもとより全道、全国の多くの消費者の方々へ、信頼される安全で安心な農畜産物を今後もご提供されますことをいっそう期待いたしますとともに、この10周年を一つのステップとして、貴JAの益々のご発展と組合長をはじめJA関係者の皆さま方のご健勝とご活躍を心からご祈念申し上げます、お祝いの言葉といたします。

# ◎ きたみらい農業協同組合 合併10周年を祝して

訓子府町

町長 菊池 一春



きたみらい農業協同組合が合併10周年を迎えられますことを心よりお祝い申し上げます。平成15年2月1日に1市4町の8農協が広域合併し「JAきたみらい」が発足し、組合長をはじめ組合員、役職員の皆さまの努力により成功を取めてこられましたことに、改めて敬意を表します。また、本町農業の振興・発展にご貢献いただいていることに対し、厚くお礼申し上げます。

現在の農業分野における最大の関心事はTPP（環太平洋連携協定）交渉であります。TPPへ参加することになれば、きたみらい管内はもちろん、北海道の農業に大きな影響を及ぼすことは必至であり、また、その影響は農業関係者のみならず、農業と密接に結びついている地域経済、医療や雇用にまで広く及ぶことが懸念されます。

今後も国民的な議論を深め、関税撤廃を原則とするTPP協定への参加を決して行わないよう皆さまとともに運動を進めてまいりたいと考えております。

このような情勢のなか、JAきたみらいにおかれましては、玉葱で全国一の産地として

の地位を確立され、麦類、てん菜、豆類、水稲などの耕種作物に加え、生乳をはじめとする畜産物を多様に生産し、まさに「北海道農業の縮図」であります。

さらに、「ECOみらいブランド」に取り組み、環境と調和のとれた玉葱、じゃがいも、にんじん作りを展開されるなど、組合員の所得の安定化に寄与してこられました。

今後も、「組合員とともに、組合員による、組合員のための」地域に貢献する「魅力あるJA、選ばれるJA」に向かって邁進していただきたいと思います。

農業者の高齢化が進み、後継者をいかに確保するか、さらなる生産性の向上、環境との調和、農地の集積等多くの課題があるなかで、私ども行政としましても、地域に根付いた支援施策を念頭に置き、貴JAと連携しながら関係者一丸となって、次の世代へ引き継げる農業を作っていかなければなりません。

最後になりましたが、これからも貴JAのますますのご発展と組合員の皆さまのご健勝を祈念いたしまして、お祝いのあいさつとさせていただきます。

# ◎輝く10周年を祝して

置戸町

町長 井上 久男



平成15年2月に1市4町8農協が大同団結し、新生「きたみらい農業協同組合」が誕生して、10周年を迎えられました。この間の役職員をはじめ農業者の方々のご苦勞に深甚なる敬意とともにお祝いを申し上げます。

特に合併調印式に5人の首長の一人として立ち合わせていただいたこともあり、私自身も特別な思いと感慨深いものがあります。

この10年間において、高い理想を掲げ、並々ならぬ決意と信念をもって組合経営にあたってこられた初代組合長の高橋俊一さん。

新制度やWTOなどの難題を抱えながら、組合員の満足度を高め、組合の融和を大切にされてこられた2代目組合長の加藤孝幸さん。

そして、平成20年に就任された3代目組合長の西川孝範さん。

本年4月の通常総代会は、国内農業の崩壊のみならず、国のかたちをも一変させる可能性のあるTPP交渉問題を背負いながらの組合長のごあいさつがございましたが、緊迫感と苦渋に満ちたものを感じたのは、私だけではありませんように思っています。

しかし、さすがに切り替えが早く、懐が深いのでしょう。不安感を抱いているだろう組

合員を思い、話す言葉のひとつひとつは真摯で、組合への深い情熱と自信に溢れたものでした。

今日、JAの役割も多様化していますが、やはり原点は、農業生産力の増進や農家の経済的な地位向上であると思います。しかし、これまでの国の農業政策の問題点は、基本戦略を打ち出しても、それを実現するための政策がちぐはぐだったり、すぐに変更してしまったりすることです。TPPをにらみながら、国民から「バラマキだ」と言われないきちんとした制度設計を求めていくようなJAであっていただきたいと期待しています。

輝かしいJAきたみらい10年の足跡を心から称えるとともに、記念誌発刊に寄せてのお祝いの言葉といたします。



K I T A M I R A I  
h Anniversary  
J A K I T A M I  
10th Anniversary  
K I T A M I R A I  
h Anniversary  
J A K I T A M I  
10th Anniversary  
K I T A M I R A I  
h Anniversary  
J A K I T A M I  
10th Anniversary

